

通級指導教室「あおぞら」

～通級指導教室での取組と目指す支援について～

北本市立栄小学校

通級指導教室「あおぞら」

指導担当 岩渕 拓也

本日の流れ

- 1 通級指導教室「あおぞら」での取組について
 - 通級指導教室とは
 - 「あおぞら」での取組⇒具体的にどんなことをしているの？
 - 実態把握のために⇒何のために？何をしているの？
- 2 目指す支援について
 - 連携の必要性
 - それぞれに合った支援
- 3 本日のまとめ



1 通級指導教室「あおぞら」での取組について

- 通級指導教室とは

- 通級指導教室とは

文字通り「通級による指導」を行っています。

通級による指導とは

- 小・中学校の通常学級に在籍し、大半の授業を通常の学級で受けつつ、障害による学習上・生活上の困難を主体的に改善・克服するために受ける特別の指導（「自立活動」の指導）
- 週1～8単位時間が標準
- 個別指導が原則、必要に応じてグループ指導を取り入れる、個別の指導計画に基づいて指導する。
- 言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、肢体不自由、病弱・身体虚弱など

- 通級指導教室とは
通級による指導とは

- ①児童生徒が在籍する学校において指導を受ける
⇒自校通級
- ②他の学校に通級し、指導を受ける
⇒他校通級
- ③通級による指導の担当教師が該当する児童生徒のいる学校に赴き、
し又は複数の学校を巡回して指導を行う
⇒巡回通級

個に応じた指導を行っていきます

在籍学級の担任と連携協力しながら、計画的な指導を行う必要がある

- 通級指導教室とは
通級による指導の時間は

自立活動の時間です

自立活動とは

- 障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした、特別支援学校学習指導要領に示されている指導領域です。
- 指導の内容は、6区分27項目に分類・整理されています。
- 例えば、自閉症の児童においては、社会性に対する指導を自立活動の時間において行う場合があります。

• 通級指導教室とは 自立活動の6区分27項目とは

- | | | |
|---|-----------|-----|
| 1 | 健康の保持 | ①～⑤ |
| 2 | 心理的な安定 | ①～③ |
| 3 | 人間関係の形成 | ①～④ |
| 4 | 環境の把握 | ①～⑤ |
| 5 | 身体の動き | ①～⑤ |
| 6 | コミュニケーション | ①～⑤ |

自立活動内容6区分27項目

①健康の保持

- ①生活のリズムや生活習慣の形成
- ②病気の状態の理解と生活管理
- ③身体各部の状態の理解と養護
- ④障害の特性の理解と生活環境の調整
- ⑤健康状態の維持・改善

④環境の把握

- ①保有する感覚の活用
- ②感覚や認知の特性についての理解（と対応）
- ③感覚の補助及び代行手段の活用
- ④感覚を総合的に活用した周囲の状況について（の把握）と状況に応じた行動
- ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

②心理的な安定

- ①情緒の安定
- ②状況の理解と変化への対応
- ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲

⑤身体の動き

- ①姿勢と運動・動作の基本的技能
- ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- ③日常生活に必要な基本動作
- ④身体の移動能力
- ⑤作業に必要な動作と円滑な遂行

③人間関係の形成

- ①他者とのかかわりの基礎
- ②他者の意図や感情の理解
- ③自己の理解と行動の調整
- ④集団への参加の基礎

⑥コミュニケーション

- ①コミュニケーションの基礎的能力
- ②言語の受容と表出
- ③言語の形成と活用
- ④コミュニケーション手段の選択と活用
- ⑤状況に応じたコミュニケーション

- 通級指導教室とは
通級による指導の対象は

言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、LD、ADHD、肢体不自由、病弱及び身体虚弱の児童生徒であり
通常の学級での学習におおむね参加でき一部特別な指導を必要とする程度のものになります
⇒北本市においては

特定のものに強いこだわりをもつ
対人関係や集団への適応が難しい
話す、聞く、読む、書く、計算する又は推論する力のうち、特定の能力の
習得と使用に著しい困難をもつ・・・など
とされています。

「北本市通級指導教室あおぞら／わかば／きぼう」資料より

- 通級指導教室とは

知的障害のある児童生徒については

知的障害のある児童生徒については、その特徴や学習上の特性を踏まえ、ほとんどの時間、通常の学級で通常の授業を受けながら指導をするという教育形態（通級による指導）はなじまないと考えられます。

※知的障害のある児童生徒の学習上の特性等

- 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい。
- 実際の生活の場で応用されにくい。
- 実際の具体的な指導が必要である。

文部科学省資料より

通級指導教室とは

埼玉県の通級指導教室数と在籍数

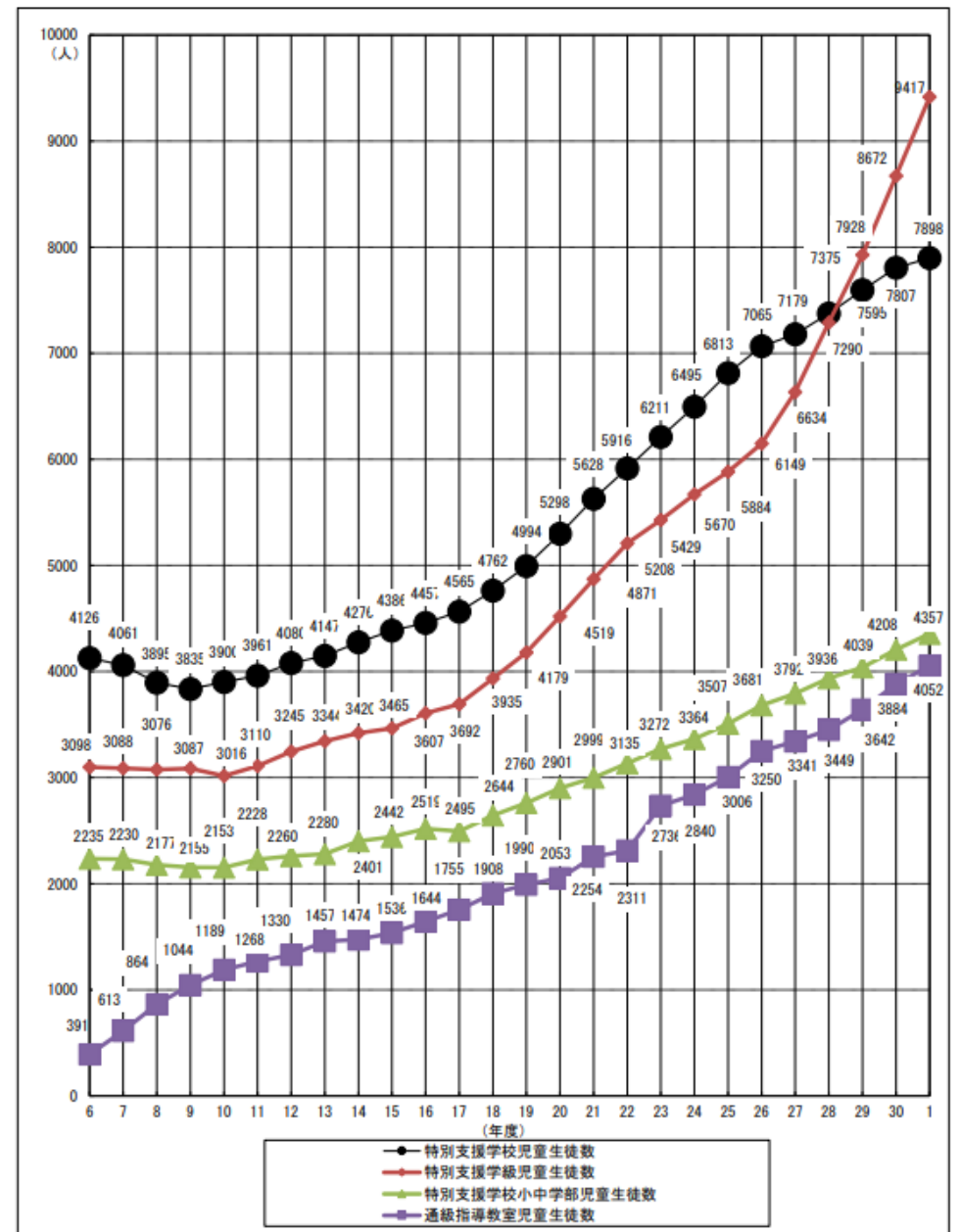
(令和元年5月1日現在)

区分	通級指導教室数				通級児童生徒数				
	小学校	中学校	小計	坂戸ろう学園	合計	小学校	中学校	小計	坂戸ろう学園
難聴・言語障害	120	1	121	1	122	1856	29	1885	10
発達障害・情緒障害	153	37	190		190	1762	395	2157	
合計	273	38	311	1	312	3618	424	4042	10

※ 坂戸ろう学園で通級による指導を受けているのは、小学生9名、中学生1名。

埼玉県教育委員会「令和元年度埼玉県の特別支援教育」より

在籍児童生徒数は増加傾向
 知的障害特別支援学校のピークは
 ⇒令和8年
 知的障害特別支援学級のピークは
 ⇒令和9年
 通級指導教室のピークは
 ⇒？



※通級指導教室児童生徒数については、平成17年度より坂戸ろう学園(学校)の通級指導教室在籍児童生徒数を含む。

埼玉県教育委員会「令和元年度埼玉県の特別支援教育」より

・通級指導教室とは 多様なニーズに対応するために

第3期埼玉県教育振興基本計画の概要

第2期計画の検証

- 確かな学力の育成 → 埼玉県学力・学習状況調査を活用した指導改善の一層の推進
- 心と体の育成 → 児童生徒の自己肯定感・自己有用感の向上、運動習慣の確立
- 学校教育環境の充実 → 教員の授業力向上
- 家庭・地域の教育力の向上 → 「親の学習」の推進、学校応援団の活動内容の一層の充実
- 生涯学習活動の支援とスポーツの推進 → 生涯学習活動への参加促進、スポーツの推進

教育を取り巻く社会の動向等

- 人口構造の変化
- 急速な技術革新
- グローバル化の進展
- 経済・雇用情勢と格差の拡大
- 地球規模の問題の進行
- 子供をめぐる状況の変化
- 家庭・地域の状況変化
- 教員の役割の増大

今後取り組むべき課題

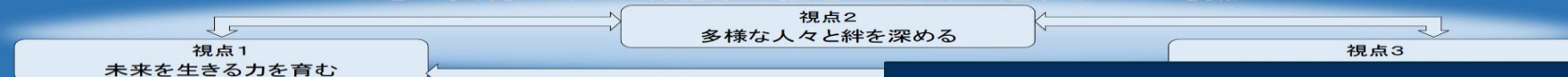
- ①社会の激しい変化に対応するための知・徳・体の育成と環境整備 ②職場や地域社会で多様な人々と連携・協働する力の育成 ③多様なニーズに対応した教育機会の提供
④家庭教育の支援、学校・家庭・地域の連携・協働 ⑤人生100年時代を見据えた生涯学習・文化・スポーツの推進

基本理念：「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」

県民の誰もが参画しうる生涯を通じた多様な学びを実現し、自身の人生や社会の未来を切り拓く力を育成することを目指します。

- ・夢や志、豊かな心を持ちつつ、社会の激しい変化に対応して、主体的に社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造できる力を育成する。
- ・埼玉県学力・学習状況調査や協調学習、学校応援団など、本県独自の先進的な取組を更に発展させ、充実させる。

理念の実現に向けて各施策の推進に当たり共通する3つの視点



10の目標と30の施策

目標Ⅰ 確かな学力の育成

- 施策1: 一人一人の学力を伸ばす教育の推進
- 施策2: 新しい時代に求められる資質・能力の育成
- 施策3: 伝統と文化を尊重しグローバル化に対応する教育の推進
- 施策4: 技術革新に対応する教育の推進
- 施策5: 人格形成の基礎を培う幼児教育の推進

目標Ⅱ 豊かな心の育成

- 施策6: 豊かな心を育む教育の推進
- 施策7: いじめ防止対策の推進と生徒指導の充実
- 施策8: 人権を尊重した教育の推進

目標Ⅲ 健やかな体の育成

- 施策9: 健康の保持増進
- 施策10: 体力の向上と学校体育活動の推進

目標Ⅳ 自立する力の育成

- 施策11: キャリア教育・職業教育の推進
- 施策12: 主体的に社会の形成に参画する力の育成

目標Ⅴ 多様なニーズに対応した教育の推進

- 施策13: 障害のある子供への支援・指導の充実
- 施策14: 不登校児童生徒・高校中途退学者等への支援
- 施策15: 経済的に困難な子供への支援
- 施策16: 一人一人の状況に応じた支援

目標Ⅵ

- 施策17
- 施策18
- 施策19
- 施策20
- 施策21
- 施策22

目標Ⅶ 家庭・地域の教育力の向上

- 施策23: 家庭教育支援体制の充実
- 施策24: 地域と連携・協働した教育の推進

目標Ⅷ スポーツの推進

- 施策29: スポーツ・レクリエーション活動の推進
- 施策30: 競技スポーツの推進

目標Ⅴ 多様なニーズに対応した教育の推進

- 施策13: 障害のある子供への支援・指導の充実
- 施策14: 不登校児童生徒・高校中途退学者等への支援
- 施策15: 経済的に困難な子供への支援
- 施策16: 一人一人の状況に応じた支援

主に児童・生徒に対する施策

主に子供を取り巻く環境に関する施策

あらゆる年齢層に対する施策

(今後5年間で挑戦する取組の例)

①埼玉県学力・学習状況調査や協調学習の拡充

②学習データを活用した個に応じた学びの研究

③地域との連携・協働による社会に開かれた学校づくり

計画の推進に際して

- 市町村、学校、家庭、地域、大学・企業等など、様々な関係者と連携・協働しながら社会全体で教育に取り組む。
- 客観的な根拠を重視した行政運営(EBPM)にも留意しつつ、PDCAサイクルにより計画を着実に実現する。

• 通級指導教室とは 多様なニーズに対応するために

(6) 共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進

ア 「心のバリアフリー」を進める教育の推進

イ 障がいのある児童生徒への社会で自立できる自信と力をはぐくむ教育の推進

ウ 特別支援学級や通級指導教室の特性を生かした特別支援教育の充実

エ 特別支援学級及び通常の学級における支援員の有効活用

オ LD・ADHD・自閉症スペクトラム障害等の児童生徒の理解と指導の充実

カ 適正な就学相談・就学支援の推進

キ インクルーシブ教育システムの構築やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの推進

北本市教育委員会「令和2年度北本市教育行政の重点施策指導の重点・努力点」より

在籍学級との協力・連携が不可欠であると考えます



3点確保 ⇒ 安定と前進

1 通級指導教室「あおぞら」での取組について

- 「あおぞら」での取組



・「あおぞら」での取組 通級指導教室「あおぞら」は



◎「あおぞら」は、「発達障害・情緒障害通級指導教室」です。

◎今年度の在籍数は、15名です。



◎他校からの通級（他校通級）が14名、自校通級が1名です。

◎それぞれの課題の克服と共に、児童と保護者が「安心できる・リラックスできる」ところを目指しています。



・「あおぞら」での取組

教室の様子①

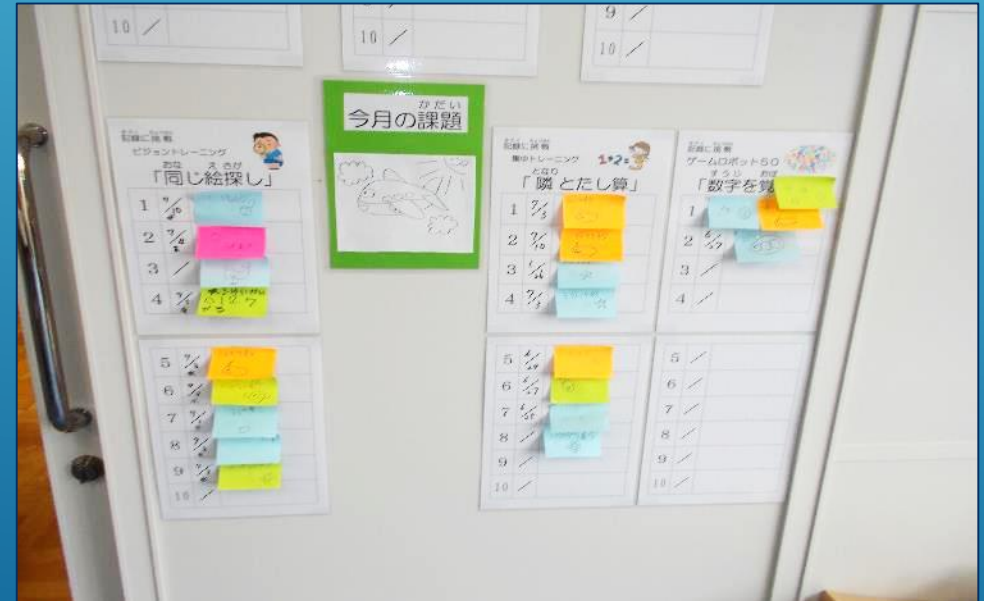


- 「あおぞら」での取組

教室の様子②

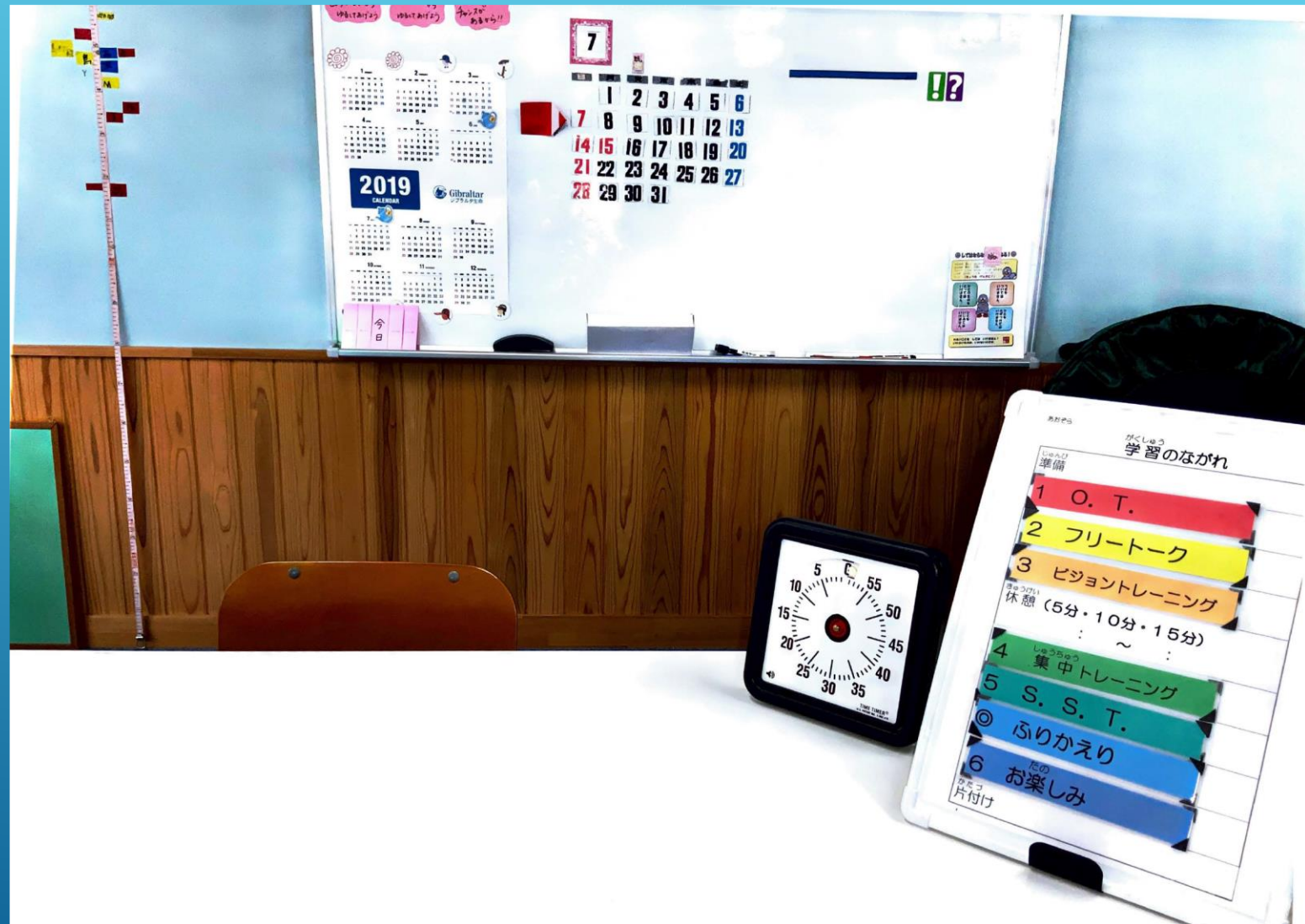


・「あおぞら」での取組
教室の様子③



- 「あおぞら」での取組

教室の様子④



・「あおぞら」での取組 活動の流れ



体を動かして、リラックスしながら活動の準備をします。

最近の出来事について話します。
5W1Hを意識しながら、記憶にあることを分かりやすく伝える練習します。

迷路やなぞなぞ等、1人で集中して取組める課題を行います。各教科の補充指導なども行います。

その日の学習を振り返ります。
頑張りを肯定的に捉え、自信をつけられるようにします。



・「あおぞら」での取組 教材・教具②



• 「あおぞら」での取組



目に見える問題行動
(ふざける・逃げる等)

注目!

目に見えないつまり
本人の特性
環境・状況 等



- 「あおぞら」での取組

「文字が読めない子」ではなく

「極端に遅いし、よく読み間違える子」

ディスレクシア

- 「あおぞら」での取組

みまなさに だじいな おらしせ。
こたのび なかお せいげどつう が
ぜたついに ばれない ように
どやらきの リニューアルを
おなこいました。

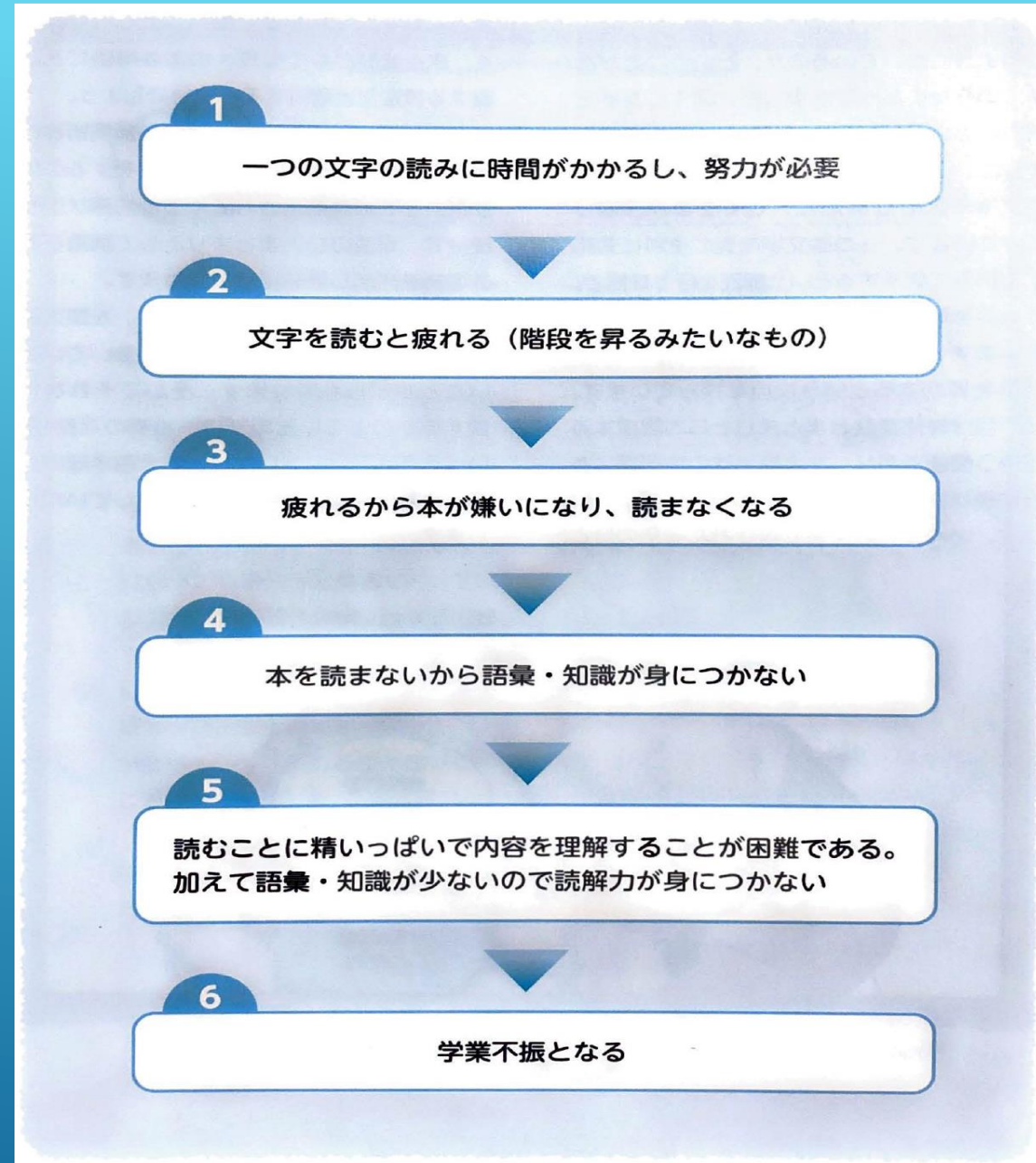
ちみなにこのぶんしょうのじんゆばんも
ばなれいようにいかれえています。



 中尾清月堂

- 「あおぞら」での取組

実態把握が必要



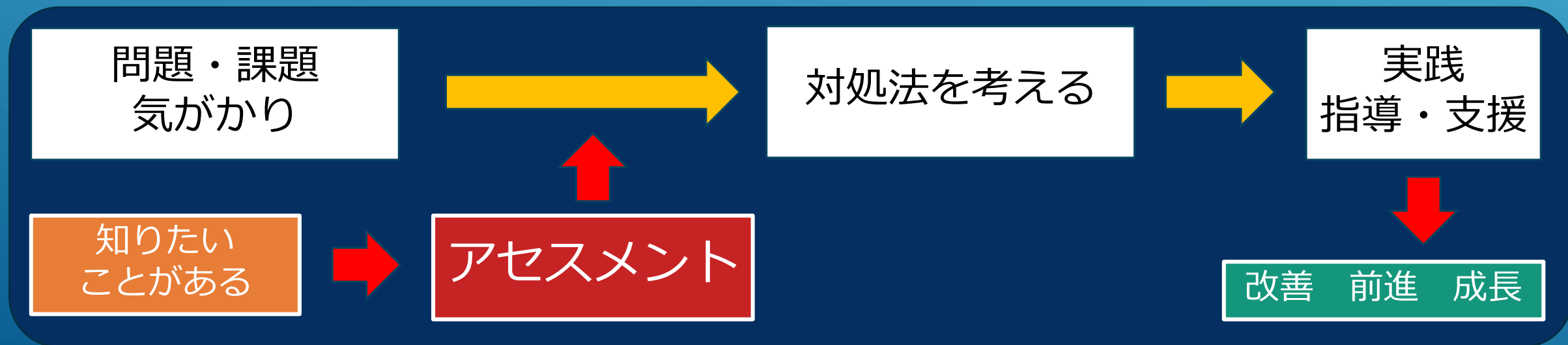


道標が必要

・実態把握の取組
アセスメントとは
ある事象を客観的に評価・査定すること

心理アセスメント

- ◎ 子供の特定の能力や性格等を測定する
- ◎ 問題解決への糸口とする（目的が明確）



・実態把握の取組 アセスメントの方法

①行動観察

- ◎ 認知・学習・学力
- ◎ 生活スキル
- ◎ 対人関係
- ◎ 性格・情緒

②聞き取り・調査

- ◎ 医師の診断結果
- ◎ 生育・既往歴
- ◎ 家庭環境について

③諸検査

◎ 乳幼児発達検査

「遠城寺式」「津守式」「新版K式」

◎ 個別式知能検査

「WISC-IV」「K-ABC II」「DN-CAS」

◎ 性格・人格に関する検査

◎ 行動・社会性に関する検査

◎ 知覚・感覚に関する検査

・実態把握の取組 アンケートシート

課題づくりアンケート 保護者用①

北本市通級指導教室 あおぞら・わかば・き

北本市立

学校 年 組

記入日 20 年 月

ふりがな
児童名

記入者

1 お子さんの得意なことをできるだけたくさん教えてください。

2 お子さんの良いところをできるだけたくさん教えてください。

3 お子さんの好きなこと（もの）、興味をもっていること（もの）は何ですか。

4 学校や日常生活の中で気になっているお子さんの様子はありますか。

5 学校や日常生活の中で、本人が不満や気になっていると思われることは、何だと思いますか。

6 学校や日常生活の中で、保護者の方が気になることや困っていることは何ですか。

7 改善したい行動は何ですか。

児童の様子についてのアンケート

学級担任用

北本市立

学校

年

組

北本市通級指導教室

あおぞら・村

記入日

20

年

児童名

記入者

児童の学校・学級での様子について教えてください。

1 対人関係

対大人

対子ども

2 学校生活のルール理解や態度（社会性）

3 行動の特徴（生活・情緒面を含む）

集団参加

注意集中

興味・関心

4 身の回りの様子（整理整頓・自分のものの管理）

5 学習の様子

聞く

話す

読む

書く

計算・推論する

きだもとしうきやうしどうきやうしつ 北本市通級指導教室          

「あおそら・わかば・きぼう」に通^{かよ}ってくるみなさんへ
 これから一緒^{いっしょ}に楽しく勉^{たの}強^{べんきよう}していくため、先生^{せんせい}はみなさんのことをたくさ
 ん知りた^しいと思^{おも}います。
 そこで、アンケートの質問^{しつもん}に答^{こた}えてください。

ねん 年 がつ 月 にち 日 ()

きだもとしうきやうしつ 北本市立	がっこう 学校	ねん 年 ぐみ 組	なまえ 名前
---------------------	------------	----------------	-----------

「あなた」のこ^{おし}について教^{おし}えてください。

あなた^{あなた}の得意^{とくい}なこととは何^{なん}ですか。たくさん教^{おし}えてください。

あなた^{あなた}の好き^すなこととは何^{なん}ですか。

自分^{じぶん}のいいところとはどんなこ^{おし}とですか。たくさん教^{おし}えてください。

苦^く手^てなこととは何^{なん}ですか。

自分^{じぶん}が学^{がく}級^{きゅう}で困^{こま}ってしまうこ^いとや、嫌^{いや}なこ^{なん}とは何^{なん}ですか。

つうきやうしどうきやうしつ 北本市通級指導教室 ^{こと} 通級指導教室で勉^{べんきよう}強^{きよう}したい事^{こと}・よくしたいと思^{おも}う事^{こと}・がんばりたい事^{こと}は何^{なん}ですか。

- 実態把握の取組

アセスメントテスト



「3つの力」をみとるアセスメントテストについて

このテストは、お子さんの「力の状態を確かめる（アセスメント）」ためのものです。3つのテストの正答数やかかった時間などから判断します。

日々取り組んでいく課題は、簡単すぎても難しすぎても「やる気」が持続しません。

そこで、このテストの結果を基に、今のお子さんの状態に合った課題を行えるようにします。

・実態把握の取組 アセスメントテスト

確かめられる「3つの力」



- ・実態把握の取組
アセスメントテスト

行動抑制・作業記憶・実行機能

選択的
注意

転換的
注意

分割的
注意

注意集中・持続

注意の集中、持続、プランニング、反応抑制の機能を訓練することで、認知機能そのものだけでなく、学校適応に関わる諸機能が改善されることが示されています。

(今井・坂本・佐藤・今井・熊野2014)

つまり、「3つの力」を鍛えることで、学級（集団）生活での困難さの改善が期待できます。

• 実態把握の取組

Test A

アセスメントテスト① Attention (注意力)

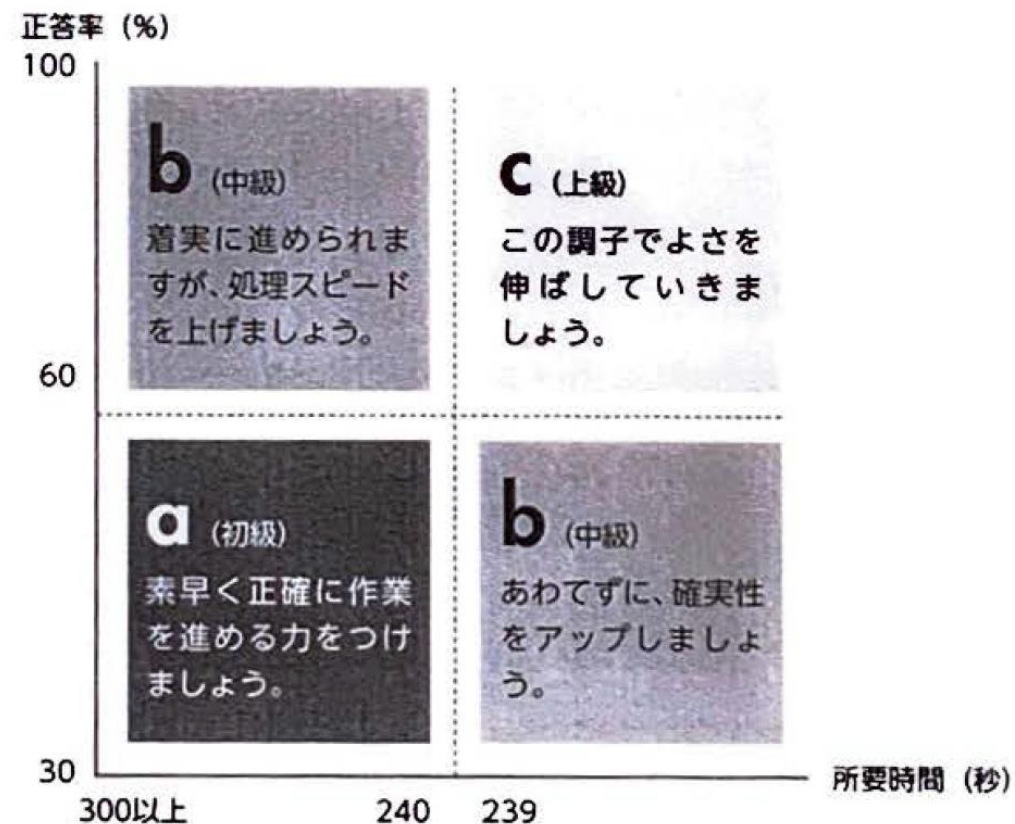
やってみよう！

物語がひらがなで書かれたシートの中から、
「あ・い・う・え・お」だけを探し出して、丸で囲む。

Test A

むかしむかし、まめたちがながしでざくざくあらわれていました。なべにあけられるとき、まめのひとつがころころけてろばたへおちました。そこにはすみとわらがいました。まめとすみとわらのさん、んがよってやあやあちようどてんきがいいしまちまでいこうじゃないかとそうだんがまとまりました。そこでまめとすみとわらはでかけることになりました。どんどんいくとかわのところへでました。ところがかわにははしがかかっていません。どうしようかとかんがえているとわらがおれがはしになってやるといいました。わらはこちのきしからあちのきしへとよこたわってまめとすみにわたれ、というしました。それではといちばんにすみかわりました。ところがすみのしんにはのこりびがあったのでちゅうまでわたるとわらがもえだしました。そしてすみもわらもじゅうじゅうとかわにおちてながれていってしまいました。まめはそれを見ていておかしがってあははあははわらってばかり。なかがながれていってしまっただけですけようとしませんでした。そしてあんまりわらったのでかんだがさけてしまいました。まめはこんどはいたくていたくてえんえんないてしまいました。そこへおんなのひとがとおりがかかってなをないてるのだねとまめにききました。まめはいいいいいとなくばかり。あれあれからだがさけちまうてかわいそうにとおんなのひとはいとでぬってくれました。ところがあわててくろいいとでぬってしまいました。そのときからまめにはあたまのところにくろいとのあとがついているんですって。

アセスメントテストA



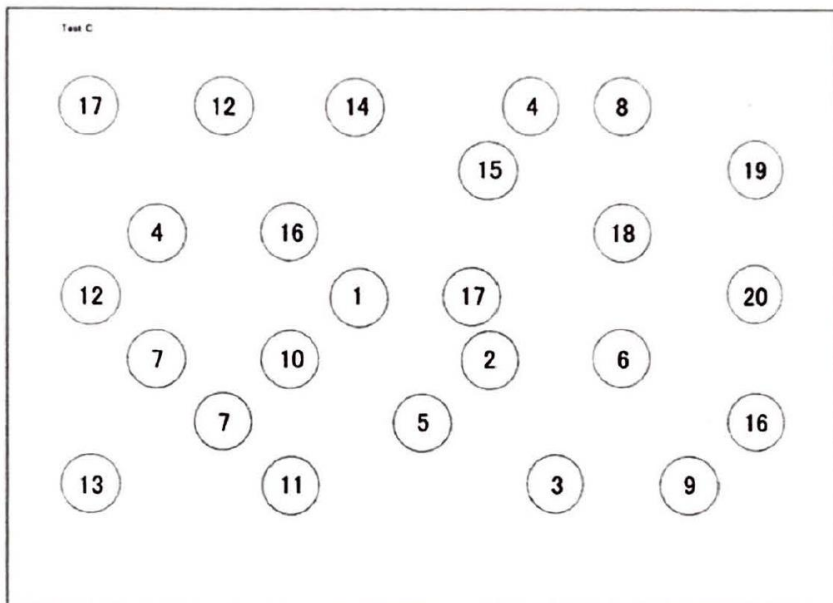
• 実態把握の取組

Test C

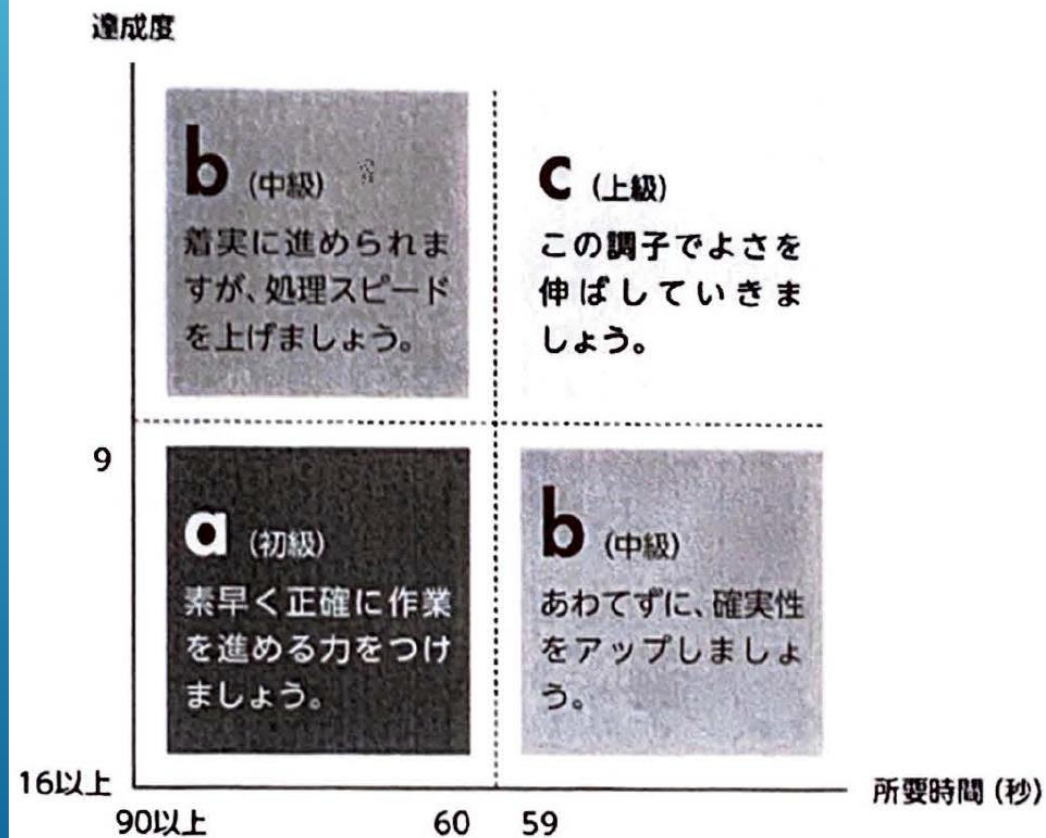
アセスメントテスト② Control (行動調整力)

やってみよう！

1 から20までの数の中から、抜けている数字、2つある数字に
気をつけながら、小さい順に斜線で消していく。



アセスメントテストC



• 実態把握の取組

Test W アセスメントテスト③ Working Memory (ワーキングメモリ)

やってみよう！

耳で聞いた物の名前を覚えておき、復唱する。

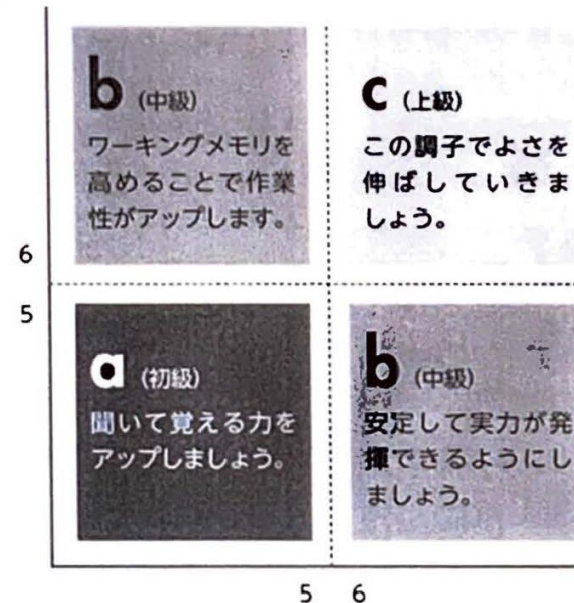
Test W アセスメントテスト④ Working Memory (ワーキングメモリ)

やってみよう！

耳で聞いた物の名前を覚えて頭の中で入れ替え、
口頭で答える。

アセスメントテストW

アセスメントテスト③
再生数 7～



アセスメントテスト④
再生数 7～

・実態把握の取組 フィードバック

「3つの力」をみとるアセスメントテストについて

このテストは、お子さんの「力」の状態を確かめる（アセスメント）ためのものです。3つのテストの正答数やかかった時間などから判断します。

日々取り組んでいく課題は、簡単すぎても難しすぎても「やる気」が持続しません。

そこで、このテストの結果を基に、今のお子さんの状態に合った課題を行えるようにします。

確かめられる「3つの力」

A Attention 注意力

「注意力」が強い子どもは、授業中や家で集中して課題に取り組めます。一方、集中力が持続しない子どもは、授業中に机を叩いたり、周囲の音に気を取られたり、話を聞かずに先生の話を聞かずにいることがあります。このような状態が続くと、学習の進捗が遅れ、自信を失ってしまうことがあります。

「注意力」を高めるには、授業中や家で集中して課題に取り組むことが大切です。授業中では、先生の話をしっかりと聞き、授業の進捗に合わせて自分のペースで学習を進めます。家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。

C Control 行動調整力

「行動調整力」が強い子どもは、授業中や家で集中して課題に取り組めます。一方、集中力が持続しない子どもは、授業中に机を叩いたり、周囲の音に気を取られたり、話を聞かずに先生の話を聞かずにいることがあります。このような状態が続くと、学習の進捗が遅れ、自信を失ってしまうことがあります。

「行動調整力」を高めるには、授業中や家で集中して課題に取り組むことが大切です。授業中では、先生の話をしっかりと聞き、授業の進捗に合わせて自分のペースで学習を進めます。家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。

Working Memory ワーキングメモリ

「ワーキングメモリ」とは、「頭の中」で情報を記憶し、処理するための能力です。授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。

「ワーキングメモリ」を高めるには、授業中や家で集中して課題に取り組むことが大切です。授業中では、先生の話をしっかりと聞き、授業の進捗に合わせて自分のペースで学習を進めます。家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。また、授業中や家で学習する際には、机の上を整理整頓し、集中できる環境を整えます。

行動抑制・作業記憶・実行機能

選択的注意

転換的注意

分割的注意

注意集中・持続

注意の集中、持続、プランニング、反応抑制の機能を訓練することで、認知機能そのものだけでなく、**学校適応に関わる諸機能が改善される**ことが示されています。

（今井・坂本・佐藤・今井・熊野 2014）

つまり、「3つの力」を鍛えることで、**学級（集団）生活での困難さの改善が期待できます。**

坂本 隆樹 著「基礎認知力アップバズル発達障害のある子の認知機能を高めよう」学研プラスより

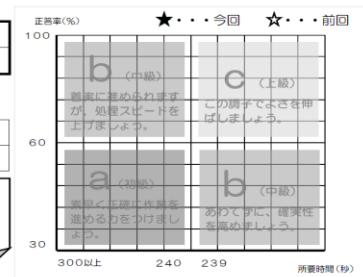
アセスメントテスト 結果報告					
北本市立	小学校	年	組	名前	
実施日時	年 月 日 () 校時～ 校時	実施場所		記録者	

Test A 注意力 (Attention)

正答数	誤答数	正答率 (%)	所要時間 (秒)

前回 年 月 日 () 校時～ 校時実施

正答数	誤答数	正答率 (%)	所要時間 (秒)

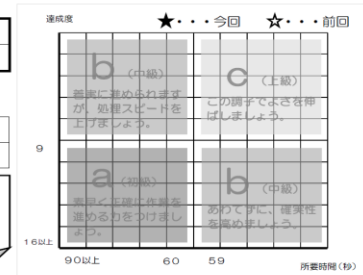


Test C 行動調整力 (Control)

正答数	誤答数	達成度	所要時間 (秒)

前回 年 月 日 () 校時～ 校時実施

正答数	誤答数	達成度	所要時間 (秒)

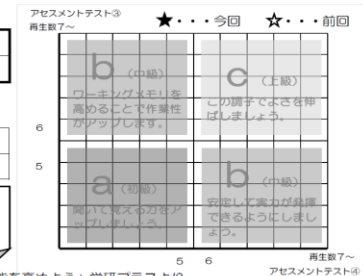


Test W (Working Memory)

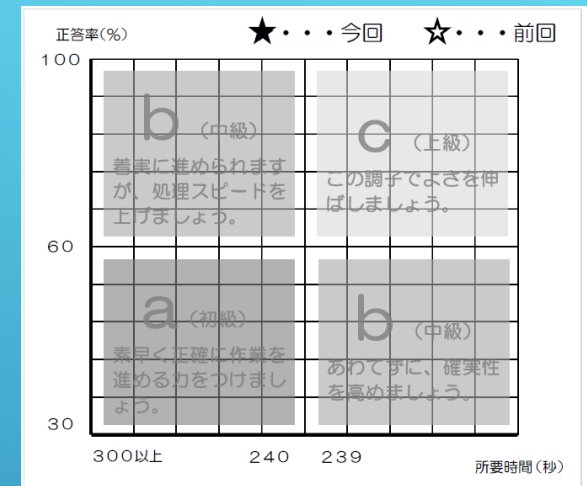
③再生数 (順番)	④再生数 (仲間分け)

前回 年 月 日 () 校時～ 校時実施

③再生数 (順番)	④再生数 (仲間分け)



坂本 隆樹 著「基礎認知力アップバズル発達障害のある子の認知機能を高めよう」学研プラスより



強みが分かる
弱みが分かる
伸びが実感できる
客観性を保てる
誰にでもできる



あそこまで行けば・・・

・実地把握に基づく計画

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

ふりがな		性別	生年月日	取扱注意
本人氏名				
ふりがな		住所		
保護者氏名		TEL		
対象期間	令和 年 月 日（ ）から令和 年 月 日			
作成年度	学 校 名	校長名	学部・学科	
1				
2				
3				
特別な教育的ニーズ				
（追加）				
本人・保護者の願い				
合理的配慮の実施内容				
（追加）				
教育機関		目標・機関名	支援内容	
	所 属 校			
	（追加）			
	就学支援委員会			

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人氏名		学 校 名		取扱注意
学部・学年・組		記入者名		
指導方針				
（追加）				
指 導 に 結 び つ く 実 態				
1 健康の保持 （日常生活面、健康面など）				
（追加）				
2 心理的な安定 （情緒面、状況の理解など）				
（追加）				
3 人間関係の形成 （人とのかかわり、集団への参加など）				
（追加）				
4 環境の把握				

・実態把握に基づく計画

教育支援プランA（個別の教育支援計画）

教育機	実施内容 (追加)			
		目標・機関名	支援内容	評価
	所属校			
	(追加)			
	就学支援委員会			

「通級による指導」
について記入する。

教育支援プランB（個別の指導計画）

本人・保護者、担任とも相談しながら目標を考え、支援内容・方法を立案し、評価する。
→PDCAサイクル

(追加)			
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法・手だて	評価



達成感 ⇒ モチベーション

2 目指す支援について

- 連携の必要性

- 連携の必要性

国

インクルーシブ教育システム構築事業

特別支援教育の専門支援人材の配置・活用等を推進しつつ、早期からの教育相談・支援体制の充実等を目的

トライアングルプロジェクト

各地方自治体における教育委員会や福祉部局の一層の連携により、行政分野を超えた切れ目のない連携の推進を目指す

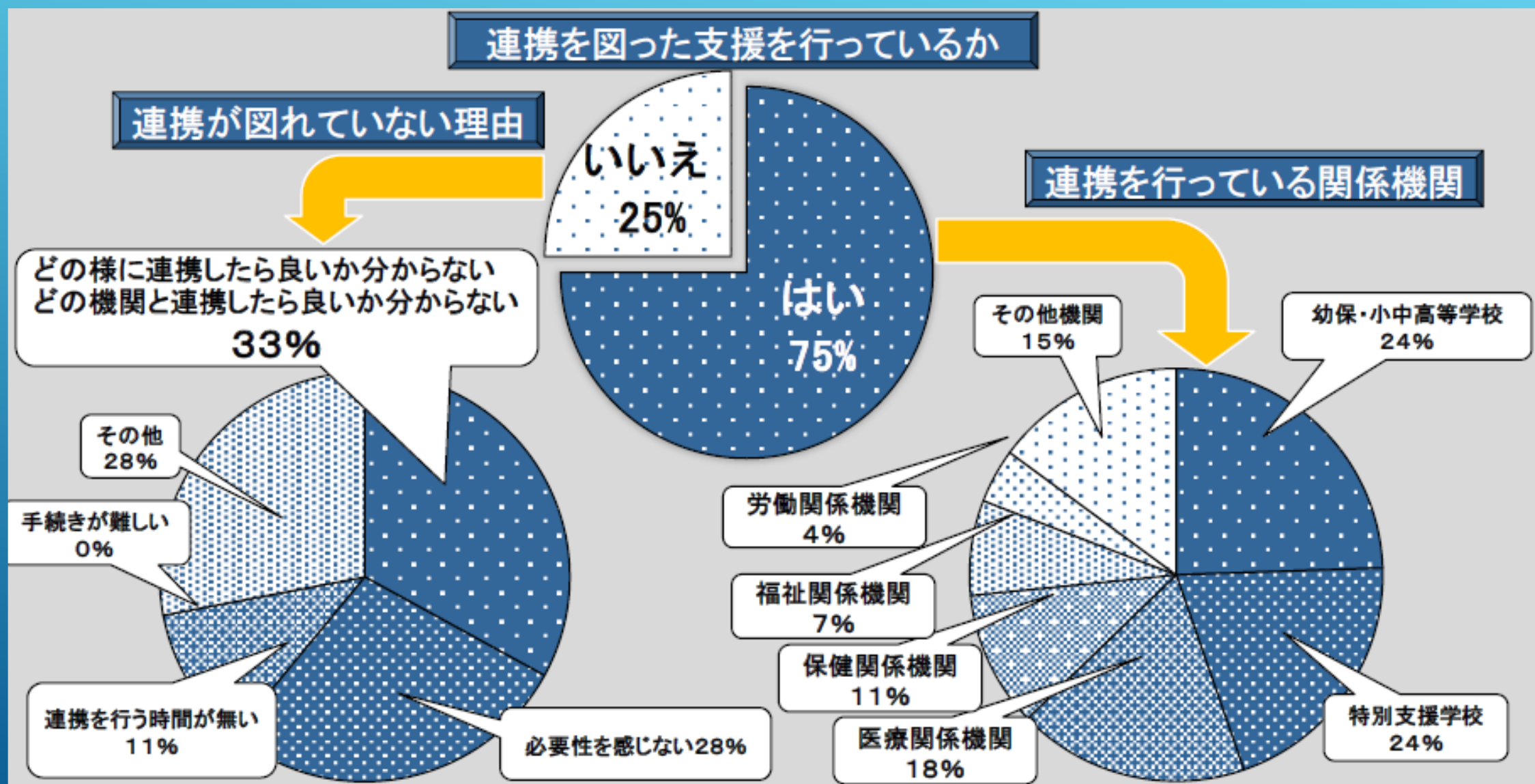


県

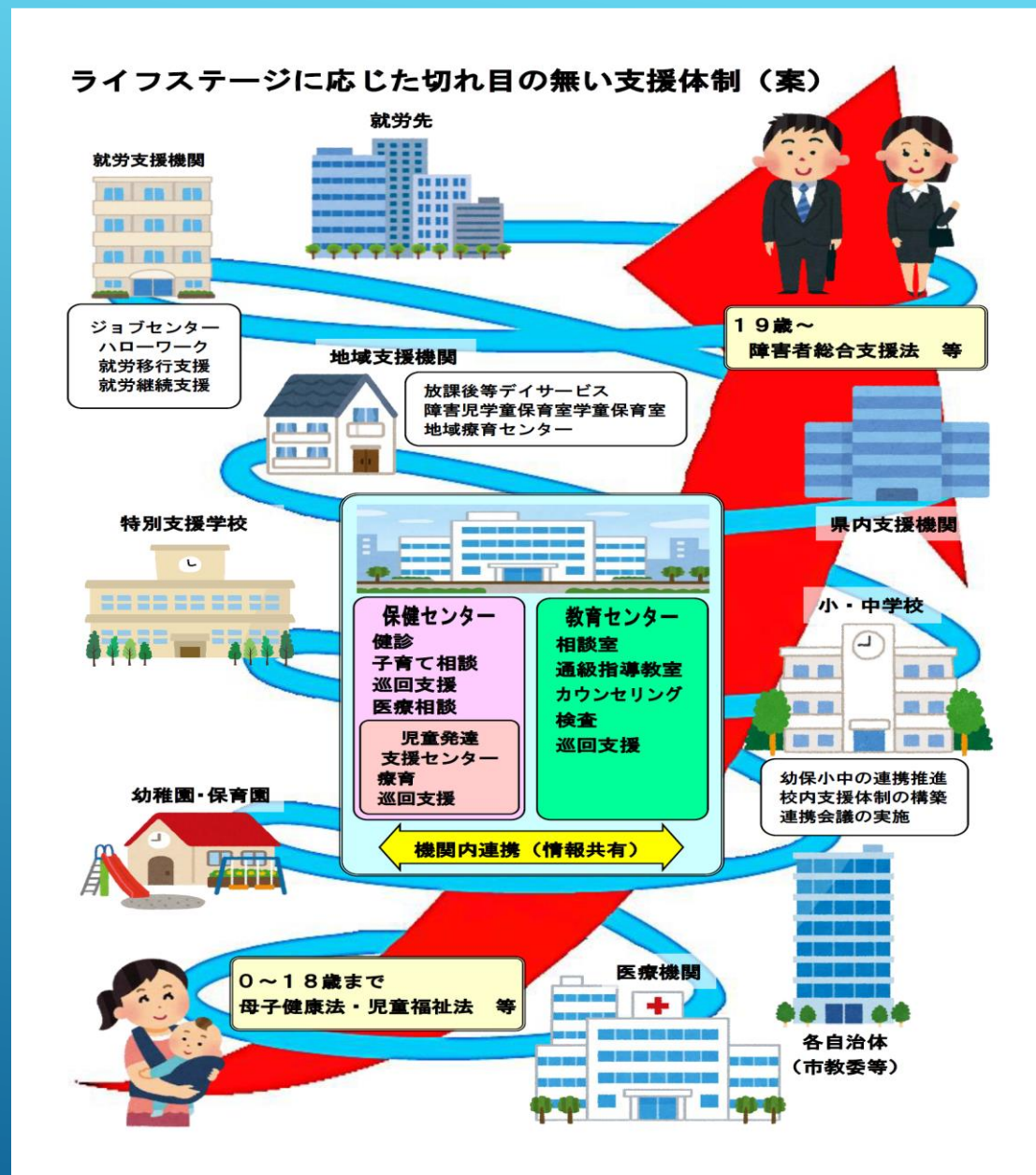
共生社会を支える特別支援教育推進事業

自立と社会参加を見据えて、その時点でその子の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備すること等を目的

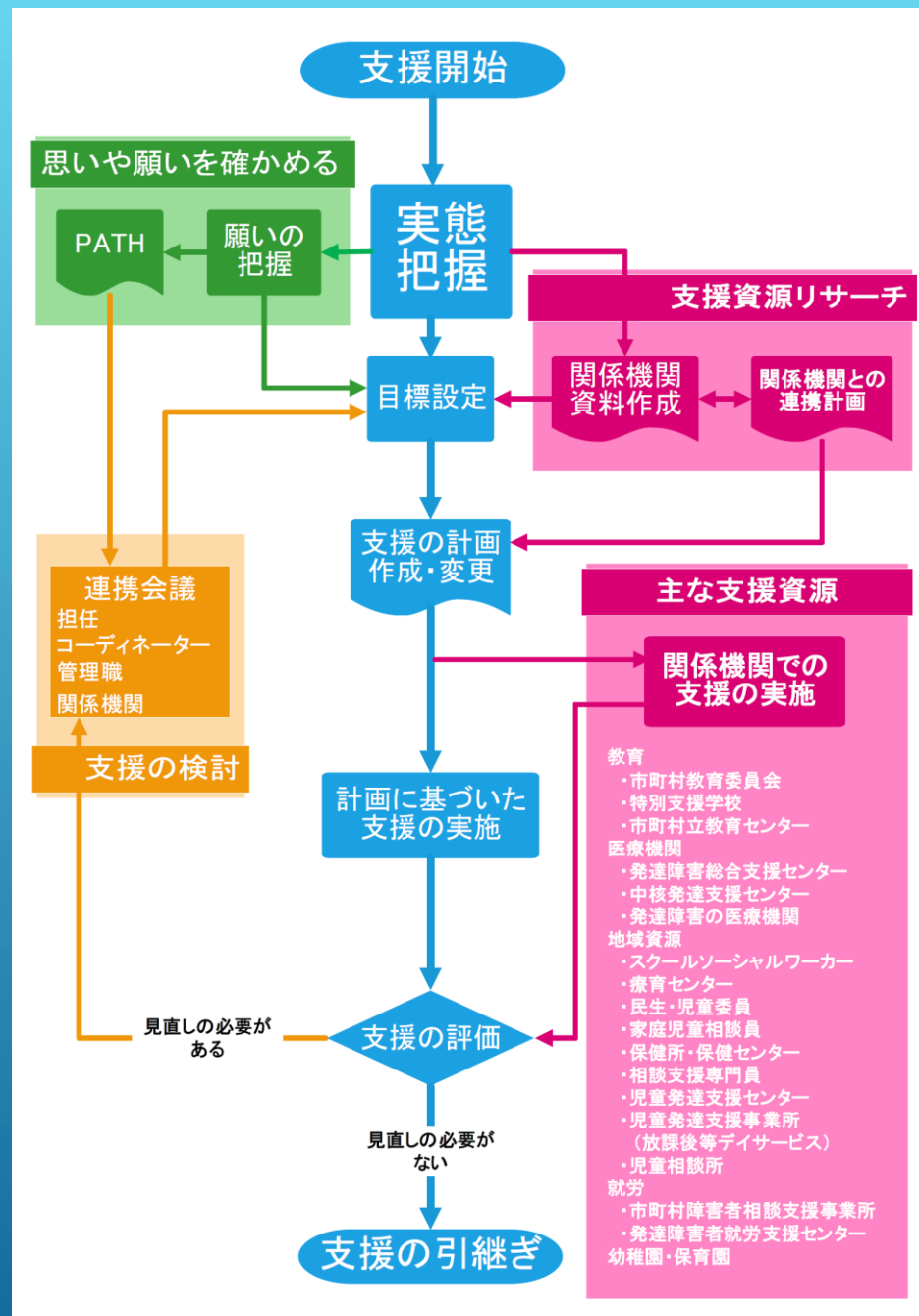
・連携の必要性



• 連携の必要性



• それぞれに合った支援



• それぞれに合った支援

自動保存

岩瀬 拓也

共有

コメント

支援のための関係機関 - Excel

ファイル タッチ ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 開発 ヘルプ 実行したい作業を入力してください

AC8

1

2

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

AA

AB

AC

AD

AE

AF

AG

関係機関資料(ひろげるシート)

区域

南部

市町村名

選択してください

<

• それぞれに合った支援

いろいろな機関と連携した支援を行ってみたいけれど、計画を立てるのが難しい・・・



必要な支援を
イメージしながら



こんな時に

《機関名》
いつ:
誰が:
支援内容:

並べることで

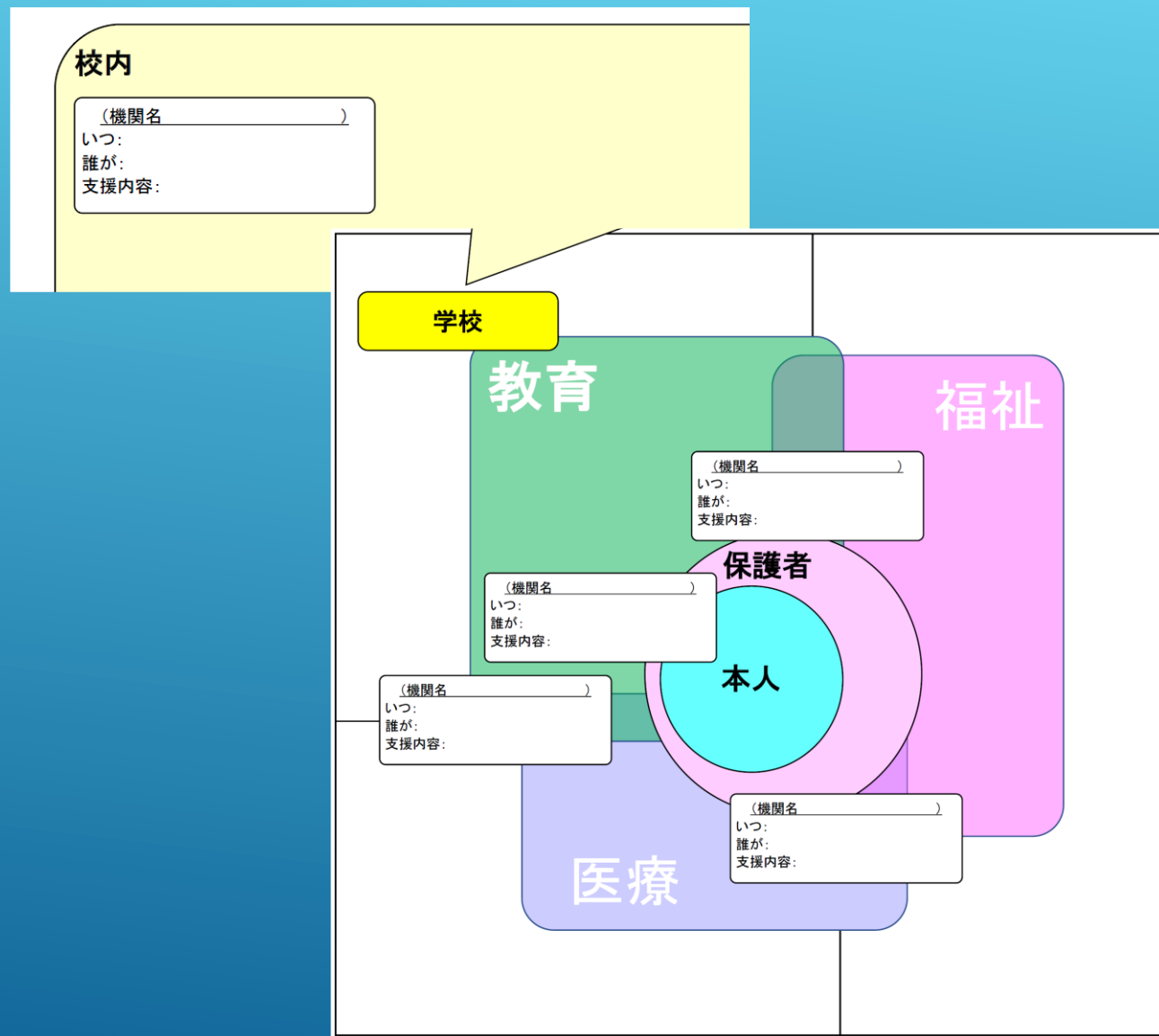
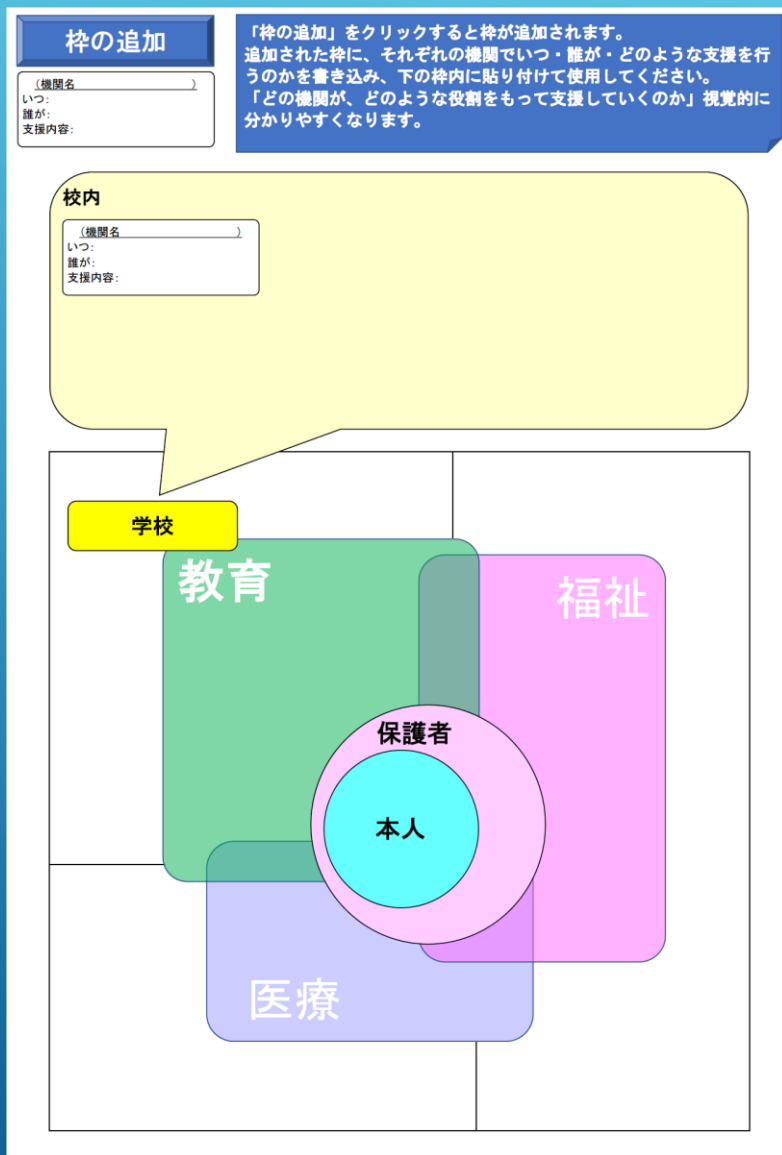


「連携会議」の際の資料
とすることもできます。



一人一人に合った支援プラン
を作ることができます。

• それぞれに合った支援





使えるものは使う、その分・・・

3 本日のまとめ



1 通級指導教室「あおぞら」での取組について

「通級による指導」を行っています

キーワード 「自立活動」

在籍学級との協力・連携が不可欠であると考えます

キーワード 「共生社会の形成」

個に応じた指導を行っています

キーワード 「実態把握（アセスメント）」

2 目指す支援について

専門性を生かした支援

キーワード 「他機関連携」

それぞれの強みを生かした支援

キーワード 「役割の明確化」

計画的な支援

キーワード 「目的意識の共有」

ご静聴ありがとうございました。

